

地域に開かれた魅力ある学校を目指して

学校運営連絡会の取り組み

今、市立の小・中学校では、学校や地域の特色を生かして、児童・生徒や保護者、そして地域の方々にも開かれた、魅力ある学校づくりに積極的に取り組んでいます。

- 小・中学校**
- ・授業や行事の公開
 - ・学校施設の開放
 - ・地域でのボランティア活動への参加
 - ・地域行事への参加など

- 地域**
- ・学習活動への協力・支援（教科や総合的な学習の時間での講師や学習活動の補助の推進など）
 - ・地域の健全育成活動の推進など

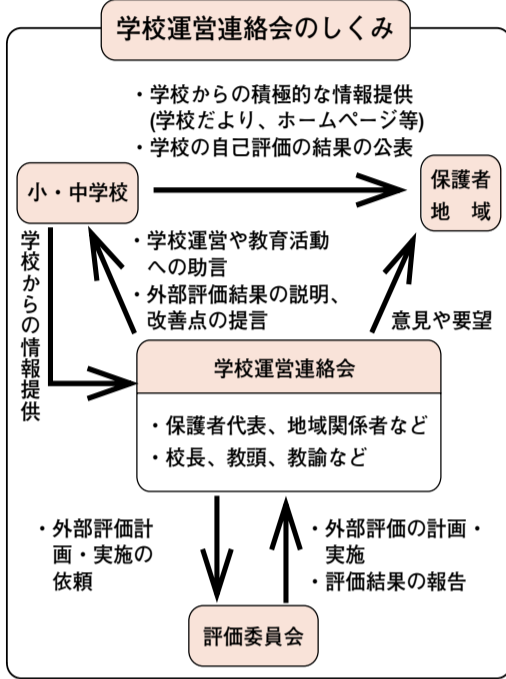
学校運営連絡会のねらい

これからは、これまで以上に、学校が積極的に情報を発信するとともに、保護者や地域の方々の意向を的確に把握し、その結果を学校運営や教育内容に反映させていくことが大切です。

学校運営連絡会は、このようなねらいを実現するため、各学校が設置し、保護者や地域の方々の意見交換をおして、学校および校長への支援体制をつくります。

主な活動

- 学校の教育活動の参観
- 学校の運営方針や教育活動への助言
- 学校・家庭および地域との連携への助言
- 学校の外部評価の実施および評価結果の公表



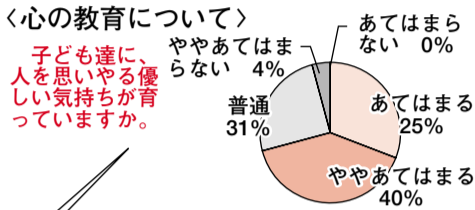
開かれた学校づくりのための外部評価



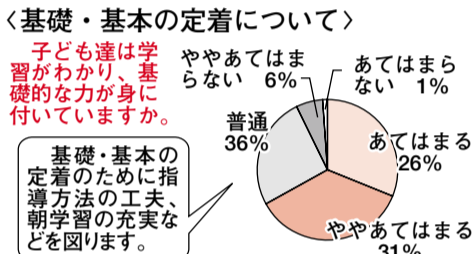
市内のいくつもの学校で、教育目標や教育内容、教育活動の実施状況などについて、保護者や地域の方々からアンケートで評価や意見などをいただき、その結果を教育活動などの改善・充実に生かしています。今後は、すべての学校でこのような外部評価を積極的に取り組んでいきます。

↓指導室 ☎3247

外部評価の例(四小)



50年間の間に、学年ごとの指導を重点化して、生活指導や学習の取り入れ、工夫を取り入れた授業の充実を重点化して、指導の単元を充実させ、心の教育も充実させています。



本指針に基づいた工夫を、基礎の定着を図ります。

来年、110歳!

第二小学校は今年、109歳。来年、開校110周年を迎えます。それまでの郷学校を東西2校に統合する形でつくられたのが今の第一小学校（東三鷹尋常小学校）と第二小学校（西三鷹尋常小学校）で、明治26年の開校です。

第二小学校

から、優に100年は超えた二小の桜の木は、まさに長寿。今も道行く人々にためいきをつかせるほどの美しい花を咲かせ、夏には100人が憩えるほどの大きな木陰をつくっているといふことは、奇跡、としか言いようがありません。



開校時の小学校は4年間の義務制でしたが、強制されることはなかったため就学率は50パーセント程度でした。その後、教育に対する考えの変化、関東大震災による都心からの人口移入等により児童数が増え続け、その度に校舎の増築、校地の拡張が重ねられてきました。

二小の110年を見守り続ける「桜の木」

第二小学校を語る時、まず誰もが口にするのが、校庭の真ん中に立つ二小のシンボル、桜の木です。樹齢は正確には判りませんが、二小よりも古いことは確かです。

学校紹介

50年から60年くらいだそうですが、ソメイヨシノの寿命は普通、

市内全小学校で英語活動始まる



の方などさまざまです。どの講師も小学校の担当の先生と授業の打ち合わせをして協力して指導に当たるなど、熱心に取り組んでくださっています。

「グッドモーニング、エブリバデー」「グッドモーニング、ティチャー」子どもたちのちよっと照れながらも元気な声と、アシスタント・イングリッシュ・ティチャーの明るい声が、教室から聞こえてきます。

三鷹市では、今年度より「総合的な学習の時間」に、市内全小学校の5・6年生を対象に英語活動の学習を取り入れています。これは、国際理解教育の一環として行われるもので、児童期に生の英語に親しむ経験をさせることが、コミュニケーション能力を育てるとともに、自国の文化を理解し、他の国の文化を理解するといった国際理解を深める上で有効であることから取り組み始めた活動です。

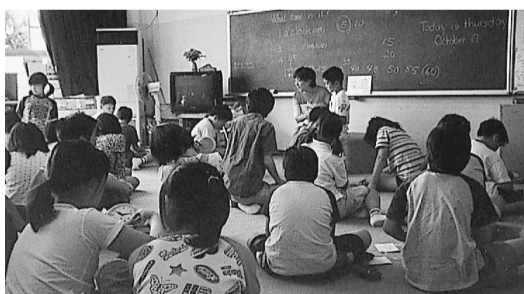
講師は、市内に在住の市民の方や、国際基督教大学の学生、ミシヨップ（三鷹国際交流協会）から派遣された方、そして、その小学校の保護者



楽しく学べるイングリッシュルーム（第五小学校）

また、各小学校の先生も初めての英語活動の授業に向けて事前に研修を重ね、主に2学期から取り組みが始まりました。今後は授業を通じた研修やアシスタント・イングリッシュ・ティチャーと一緒に進める研修、また、中学校の英語の授業との連携も視野に入れた研修を取り入れるなど、英語活動のいっそうの充実を図っていきたいと思います。

↓指導室 ☎3247



ゲームなどを取り入れた英語活動のようす（東台小学校）